

シグマ研究委員会 F.P.核データワーキンググループ会合議事録

日 時：昭和51年6月11日(木)，12日(金)

場 所：原研東海原子核データ室

出席者：中嶋(法政大)，五十嵐，菊池，中川，松本(原研)，松延(住友原子力)，渡部(川重)，佐々木(MAPI)，青木(中村代理；富士)，川合，吉田，村田，飯島(NAIG)，真木(日立，オブザーバー)

議 事：

1. 取扱い核種の見直し

前回の議事に従って取扱い核種を再検討し，その結果数核種の追加が行われ，結局，100核種を対象とすることになった。従来終了していた28核種を差引くと，今後の作業は72核種を扱うことになった。

2. 計算の入力データの作成

- (i) レベルスキームは45核種の評価が残っているが，今回の評価で7核種を終了したので，残り38核種ある。現在，評価が進行中の11核種を済ませ，残りはkeV $\sigma(n, \gamma)$ データのあるもの4核種を優先する。(松本，村田，中島)
- (ii) Dobs の評価は28核種について済んでいる。従来，終了していた28核種と合せると，残りは44核種である。この中，分離共鳴レベルが測定されている18核種を評価して行く。尚，Dobs の評価のためにはFP領域の全核種について(100核種に含まれていなくても)眺める必要があるので，BNL-325 3rd edition からの追加データカード化が必要となる。このカード化は時期的に余り急がないことを条件に核データ室で引受けることになった。(吉田，佐々木)

3. 計算コードの改訂

CASTHY code, RING code (semi-empirical statistical theory) の入力フォームを，多数核種を計算するのに便利なように改訂した。(五十嵐，川合)

4. 中性子断面積の計算

keV $\sigma(n, \gamma)$ データとDobs 評価値が整っているものについて計

算を始めた。今回計算を始めたのは次の15核種である。 ^{85}Rb , ^{87}Rb ,
 ^{89}Y , ^{91}Zr , ^{94}Zr , ^{96}Zr , ^{127}I , ^{139}La , ^{142}Ce , ^{146}Nd , ^{148}Nd , ^{150}Nd ,
 ^{150}Sm , ^{152}Sm , ^{154}Sm .

5. 断面積データの収集

- (i) $\sigma(n, \gamma)$ データの収集, 出版および $\sigma(n, n')$ の収集は核データ室からの調査委託として行なうことになった。計算との比較と関連してデータの質の吟味の必要性が強調された(松延, 渡辺)。
- (ii) Resonance integral の編集を, 核データ室から青木氏(富士)に調査委託する件が諒承された。内容としては, 従来の諸編集値をまとめ, 且, 本W.G.の計算値との比較を行なうこと, および数核種について測定条件の調査と評価を行なうことである。

6. その他

日立 真木氏から事情が許せば本W.G.に復帰したい旨の意向が述べられ, W.G.としては非常に歓迎し, 諒承された。

次回会合予定: 7月8日, 9日 東海